

令和5年度 学校経営方針

甲斐市立双葉中学校

はじめに

本校は、歴史と伝統のある学校である。校訓「至誠」を目指した、真心を尽くす人間関係の構築、毎日が「至誠の鐘」で始まる、落ち着いた学校生活、「日本一の玄関とあいさつ」による礼儀とマナーの醸成、「生徒会活動・部活動の充実」による活気のある学校、「やまなしスタンダード」と「授業に向けて7つの心構え」の徹底による、学び合いの楽しい学校、「チーム双葉中」として、生徒、教職員、保護者が一体となって、力を合わせて取り組んでいく学校経営を進めていく。

『至誠の教育』

「真心を尽くす」教育を推進する。授業や部活動、学校行事等の場で、教師と生徒が、共に汗を流し、共に笑い、共に涙を流し、心と心が通じ合う教育を進めていくことで、師・友・先輩・後輩と呼べる人間関係を築く礎となる体験の場として、双葉中をつくっていく。

『致知の教育』

「力を合わせて知識を極める」教育を推進する。「教える」から「自ら学ぶ・共に学び合う」学び合いの楽しい学校へと変えていく。授業でも家庭学習でも、与えられるのを待っているのではなく、友だちと協働して、試行錯誤しながら新たな問題を発見・解決し、新しい価値を創造する力を付けさせていく。そのためには、学校、保護者、地域と連携して、授業が家庭学習へと有機的に結び付き、地域の教育力が子どもたちの創造力を高めていく教育となるよう進めていく。

『鍛錬の教育』

「心身を鍛える」教育を推進する。

難しいこと、苦しいことに出会ったら、自分を鍛えるチャンスと前向きに捉えさせ、しなやかで、たくましく生き抜く力を醸成する。職員・生徒・保護者・地域が「チーム双葉中」として、力を合わせて、一つひとつ壁を乗り越えていく教育を進めていく。

1 校訓 「至 誠」 何かのため善かれかしと純粹に思う心。まごころ

2 学校教育目標

主体的に学び、心身ともに健やかで、人間性豊かな生徒の育成

- 自ら学び、よく考え、創意工夫する生徒
- 感じる心や思いやりの心をもつ生徒
- 目標を持ち、粘り強くやり抜く生徒
- 健康で、体力のある元気な生徒

[めざす学校像]

- 心の居場所となる明るく楽しい学校
- 職員チーム力で前進する学校
- 地域に学び、地域と共に育つ学校

[めざす教師像]

- 子どもを愛し、情熱と使命感を持った教師
- 共に学び、共に働く教師
- 常に自己を磨き、創意工夫する教師

3 今年度の指導重点

(1) 学び合いの楽しさを育てる学習指導

- ①生徒に身に付けさせたい資質、能力を各教科等で明確にし、ICTの活用等を進めながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
- ②家庭学習の習慣化等につながる学習意欲の向上を図るため、問題解決的な学習の質的向上を目指した授業づくりに努める。
- ③考える力や記述の力を高めるため、授業や評価問題の中に、生徒が自らの考えを記述する内容を取り入れる。
- ④「授業に向けて、七つの心構え」、「やまなしスタンダード」による学習規律の確立とたゆみない授業改善や、「見方・考え方」を働かせて問題解決等に向けた探究学習を行うことで、確かな学力の定着と向上を図る。
- ⑤社会に開かれた教育課程を地域に積極的に発信し共有して、「学びの地図」を踏まえながら、教科等に地域の人的・物的資源を有効活用し、連携・協働による教育活動の充実を図る。
- ⑥啓発的体験活動の充実を図り、「キャリア・パスポート」を活用して、生徒一人一人の社会的・職業的自立のために必要な基礎的・汎用的能力の育成に努め、主体的計画的な進路選択ができるように支援することで、将来への夢や希望をもたせ、自己の生き方を模索できる生徒を育てる。

(2) 豊かな心と望ましい人間関係の育成

- ①教育活動全体を通して、思いやりの心や命を大切にする、真心の教育を進める。
- ②「至誠の鐘」、「日本一の玄関」、「朝読書」等による落ち着いた学校生活を構築し、生徒と教師が共に学ぶ教育を推進する。
- ③学校行事、生徒会活動、学級会活動、部活動等を通して、生徒の居場所づくり、絆づくりに努め、自己肯定感を涵養していくと共に、人間形成や成長発達の基盤となるように充実させる。特に学級経営の充実に重点を置き、学校全体で取り組んでいく。
- ④心の糧となる読書活動や文化芸術活動、一流の芸術や地域文化にふれる機会を通して、自らの感性を磨くと共に、相手に気持ちを伝える表現力の向上を図る。
- ⑤保護者や地域と協力して、勤労・福祉・ボランティア活動等の充実に努め、他人や仲間と共生する心を醸成し、地域愛を育み、地域に貢献する生徒を育成する。

(3) 健康・安全教育の充実

- ①自助・共助の精神を培い、安全についての実践的な能力や態度を育てる。
- ②健康3原則(栄養、睡眠、運動)を推進し、望ましい生活習慣の確立に努める。
- ③体育的行事や部活動等を通して心身を鍛えると共に、最後までやりぬく粘り強いしなやかな心を育てる。
- ④登下校の安全確保、防犯に関する対応指導、防災教育の充実、Jアラート対応、授業・部活動・学校行事等の事故防止等における危機管理マニュアルの不断の更新と徹底により、安全で安心な学校づくりに取り組む。また、新型コロナ対応を適切に行っていく。

(4) 愛情と信頼、生徒理解に基づく生徒指導

- ①定期的なアンケート調査、Q U調査等を生かし、生徒個々の実態を把握して、生徒に寄り添った指導を組織的・継続的に行うと共に、保護者・関係機関との連携を図る。
- ②生徒が発する兆候を見逃さないよう、常日頃から情報交換を行い、いじめ等の問題の未然防止・早期発見・早期対応に心がけ、問題発生時には的確な情報把握と迅速で組織的対応に努める。
- ③校外学習等の集団生活や体験活動を通して、社会的なマナーや規範意識の醸成を図る。
- ④生徒が自己有用感や充実感・成就感を味わえるような集団づくり、授業づくりの工夫に努める。また、学習相談室の機能を充実させ、家庭との連携を深めていく。
- ⑤全教育活動において、心と心が通じ合う教育を進め、信頼に基づいた師・友・先輩・後輩と呼べる人間関係を築く。
- ⑥「S T支援連絡掲示板」の活用やミドルリーダーによる校内委員会の充実により、共通理解と共通指導の徹底を図る。

(5) 信頼される学校づくり

- ①P D C Aによる学校評価を生かした教育活動の組織的・継続的な学校改善に努め、学校評議員制度を活用しながら、信頼される学校づくりを進める。
- ②家庭・地区小学校・地域・関係機関との密接な協力体制を確立して、双葉中教育を推進する。
- ③各種たより、ホームページを活用して、地域へ積極的な情報発信を行う。